

国友鉄砲ミュージアム

国友鉄砲ミュージアムは、日本で最も初期の銃器製造中心地のひとつであった長浜の歴史を深く知ることができる場所です。約 50 点の古い銃が展示されており、そのほとんどは江戸時代後期(1603–1867)のものです。同コレクションの武器は、実用的な戦場で使われるマスケット銃から華やかに刻まれた芸術作品にまで多岐にわたります。

銃器は 16 世紀半ばにヨーロッパから日本に導入され、すぐに戦争において極めて重要な役割を果たしました。現在の長浜市の一部である国友は、すぐに鉄砲鍛冶としての評判を確立しました。17 世紀までに、約 500 の銃器製造業者が国友に住み、働き、この地域は次の 200 年にわたって政府へ武器を供給し続けました。

博物館の一部は、「江戸時代のダヴィンチ」と呼ばれることもある鍛冶師であり発明家である国友一貫斎(1778–1840)の生涯と作品に捧げられています。一貫斎の仕事は、銃器だけでなく、投影鏡や日本初の反射式望遠鏡にまで及び、太陽と月の表面観測に使用しました。一貫斎の天体の絵や発明のいくつかは博物館に展示されています。